

所信表明と施策方針

令和6年3月5日第1回定例会の開催にあたり、所信表明を行いました。

(原文を一部抜粋して掲載しています)

まず初めに、上山町長におきましては、病氣療養のため、2月26日から副町長である私が町長の職務を代理することとなりました。そのため、本定例会への各案件につきまして、湯浅町長職務代理者として提案させていただいておりますので、提案理由を私の方から述べさせていただきます。

去る2月4日、議員各位にもご参加いただき、岸本周平和歌山県知事を本町に迎え、県政報告会を実施いたしました。岸本知事には、今後の和歌山県の目指す姿や重要施策などについてお話いただきました。その中で、湯浅町では既に実施している小中学校の給食費無償化を和歌山県としても推進することや南紀白浜空港の滑走路延伸により更なる観光誘客を実現することなどを話されました。岸本知事が掲げる「和歌山が最高！子どもたちが思う未来を！」というスローガンは、少子化や人口減少といった課題解決につながるものであると感じております。こういった課題の解決には、町独自の

取組はもちろん重要でありますが、広域的な施策、特に県との連携は不可欠でありますので、和歌山県をはじめとした関係自治体と密に連携しながら、湯浅町の継続的な発展につなげてまいりたいと考えております。

さて、本定例会に提案させていただきましたきました案件は、議報1件、議案31件、報告1件であります。

条関係の主なものとしたしまして「湯浅ふるさと館設置及び管理に関する条例制定の件」についてであります。

所信表明と施策方針

現在、旧湯浅町立図書館の1階ではふるさと振興課が執務を行っており、2階は各種教室などで町民の皆様にご利用いただいております。当該施設を「湯浅ふるさと館」として、町民の皆様の交流及び活動の場として引き続きご活用いただくとともに、ふるさと振興課と、現在、湯浅えき蔵1階にあります一般社団法人湯浅町観光協会の事務所を同施設に集約することで、観光振興をはじめとする湯浅町のPRをより効果的に行えるよう連携を進めてまいります。また、湯浅ふるさと館の設置に伴い、図書館付施設設につきましたも所要の改正を提案しております。その他、関係法令の改正等による条例の一部改正や高額療養費貸付制度の実態に合わせ基金を廃止するための条例を提案しております。

続いて、令和6年度一般会計予算についてであります。令和6年度の予算総額は、約112億8,600万円であり、前年度当初予算と比較して約4億6,000万円の増額となっております。

財政状況につきましては、決して楽観できる状況ではありませんが、ふるさとまちづくり寄附金や有利な地方債などを有効に活用し、必要な施策を着実に推し進めてまいります。

令和6年度予算の編成につきましては、令和3年に策定いたしました第四次湯浅町長期総合計画に町の将来像として掲げております「歴史と人の温もりで支え合うまち 湯浅」いつまでも安心安全に住み続けられる未来の創造」に基づき、豊かに自分らしく住み続けられる地域社会の実現に向けた施策に取り組んでまいります。

結婚新生活支援事業補助金や出産祝い金、学校給食費無償化といった事業を引き続き実施し、若い世代が住みたい住み続けたいと思えるまちづくりを推進いたします。加えて、本年4月より有田市に開院する産婦人科診療所について、市が行う運営補助に有田地方の3町で負担金を支出することで、地域で子どもを産み育てる環境整備に貢献いたします。さらに、シルバー人材センターを広川町と共同で運営することにより、高齢者の生きがいづくりにつなげたいと考えております。これらの事業により、あらゆる世代が活躍でき、お互いを認め合いながら住み続けたいと思えるまちづくりが実現できるものと考えております。

次に、安心安全に暮らせるまちづくりとして、JR湯浅駅から島の内区にかけての町道湯浅177号線の無電柱

化に向け、まずは測量設計業務に着手いたします。当該路線の無電柱化を実現することで、交通安全や防災の面においても有効であり、更に駅前周辺の景観向上にもつながると考えます。また、老朽化しております斎場につきまして、これまで建替に向けた準備を進めてまいりましたが、令和6年度から新施設の設計など建替事業に本格的に着手いたします。

これらに加え、税の証明書等を遠隔地より請求する際のオンライン決済の導入や財務会計事務の電子決裁の導入により自治体のデジタルトランスフォーメーション、いわゆるDXを推進してまいります。これらの事業を着実に推進することで、長期総合計画に掲げる町の将来像とともに持続可能なまちづくりを実現してまいります。

